

平成31年度

山形県公立高等学校入学者
選抜学力検査成績概況

令和元年6月

山形県教育委員会

<目 次>

国 語

- 1 結果の考察 1
- 2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント) 1
- 問題別正答率 (%) 2

社 会

- 1 結果の考察 3
- 2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント) 3
- 問題別正答率 (%) 4

数 学

- 1 結果の考察 5
- 2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント) 5
- 問題別正答率 (%) 6

理 科

- 1 結果の考察 7
- 2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント) 7
- 問題別正答率 (%) 8

英 語

- 1 結果の考察 9
- 2 今後の学習のポイント (授業改善のポイント) 9
- 問題別正答率 (%) 10

資 料

平成31年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況

(入学定員・入学志願者等の数・合格者等の数等)

- 1 年度別比較 11
- 2 課程別・学科別 12
- 3 推薦入学者選抜実施状況 13

国 語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

㊦の問四は、登場人物の言動の意味をとらえ的確に表現する力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、学習の成果がみえる。場面の展開や登場人物などの描写に注意しながら、読み取った内容を適切に表現する学習に取り組むことが大切である。㊧の問二は、話し合いの話題や方向をとらえ、的確に話す力をみる問題だが、正答率が8割を超えており、「話すこと・聞くこと」の力がしっかりと身に付いていることがうかがわれる。㊨の作文は、資料から目的に応じて必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめる力をみる問題である。7割を超える受検者が9点以上得点しており、学習の成果がみえる。一方で、体験の記述がグラフの読み取りを踏まえたものになっておらず、自分の考えを深められていない解答が目立つなど、課題がみえる。目的に応じて情報を選択・整理した上で、文章の構成や展開を工夫しながら自分の考えを表現することに取り組みたい。

(2) 課題がみえる問題

㊦の問二は、品詞についての基礎的な知識・理解をみる問題だが、正答率が6割程度にとどまり、課題がみえる。単語の類別について、単語のもつ文法的な役割とともに、品詞と文の成分との関係を理解できる力の育成が望まれる。㊦の問七は、文章の展開を確かめながら要旨をとらえ、的確に表現する力をみる問題だが、部分点を含め正答率が高いものの、本文を抜き出しただけで適切な文章として表現できていない解答が目立つなど、課題がみえる。文章を読むときには、文章の構成や展開、表現の特徴を踏まえた上で、書き手の考えをとらえ、それを的確に表現できるような学習を心掛けたい。㊧の問三、問四は、文章の展開に即して内容を的確に表現する力をみる問題である。部分点を含め正答率が7割を超えているが、高等学校から「主語を的確に示せない」「問われたことに適切に答えられていない」という報告が寄せられている。古典の世界に親しみながら、理解した内容を的確に表現する力を身に付けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 国語で正確に理解し、適切に表現することができる

基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図りながら、国語で表現された内容や事柄を正確に理解することや、国語を使って内容や事柄を適切に表現することができる。

(2) 主体的に読書に取り組むことができる

読書を通して知識を広げたり、自分の考えを深めたりすることができるよう、図書館を活用するなどして、主体的に読書に取り組むことができる。

(3) 授業者は「付けたい力」の定着を図る授業計画と評価の工夫を

授業者は、学習の系統性を意識した年間指導計画を作成するとともに、生徒の主体性を引き出し、言葉による見方・考え方を働かせながら深い学びを実現できる学習課題の設定と言語活動の充実を図りたい。その上で、各単元において「付けたい力」が定着したかどうかを適切な評価規準に基づいて評価し、指導の改善につなげたい。

問		27											
		6	4	2	2	4	3	2	2	2			
問四 本文に即した内容であること。 問七 「身体的経験」「答え」「想像力」が用いられており、本文に即した内容であること。	備	二											
		問七(例)	問六	問五		問四(例)		問三	問二	問一		一	
		す	え	を	身	長	ひ	代	イ	ウ	は		けい
		る	と	用	体的	い	た	。テ	イ	ウ	お		い
		存	ば	い	的	時	す	。ル	91.0	62.2	ぶ		さい
		在	異	て	経	間	ら	な	91.0	62.2	か		
		。	な	、	験	前	へ	く	91.0	62.2	れ		
			る	す	そ	78.5	92.7	イ	74.7	96.5	る		
			も	で	持			メ			か		
			の	に	ち			ー			れ		
			を	出	、			ジ			る		
			実	来	新			が			る		
			現	上	た			あ			る		
			し	が	な			ふ			る		
	よ	っ	想			れ			る				
	う	た	像			る			る				
	と	答	力			る			る				
完 解		50.0											
50~99%		31.3											
1~49%		6.9											

【注意】この採点基準によって処理したい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

(3) 書写・表記	(2) 構想・叙述	(1) 内容	18
A B C	A B C D	A B C D	
A B C	A B C D	A B C D	
(3) 書写・表記 〇〇文字が正しく、表記や語句の用法が適切であるか。 字形や大きさ、配列など、文字が整っているか。	(2) 構想・叙述 〇〇二段落で構成されており、二〇〇字以上二四〇字以内で書かれてあるか。 〇〇第一段落には、グラフを見て気づいたことが述べられ、第二段落には、第一段落を踏まえ、これからの生活で心がけたいことが述べられているか。 〇〇文章の組み立てや展開が適切で、叙述の仕方が的確であるか。	(1) 内容 【評者の観点】 〇〇グラフを見て気づいたことが、明確に述べられているか。 〇〇これからの生活で心がけたいことについて、自身の体験や見聞きしたことを踏まえ、自分の考えを深めているか。 〇〇第二段落で述べられている内容が、第一段落で述べられている内容を踏まえたものになっているか。	五
14点~18点 22.6	9点~13点 51.0	5点~8点 21.2	
1点~4点 3.5			

問		18					
		3	2	2	2	2	
問二 エ	備考	問一					
		5	4	3	2	1	
		服装	尊敬	簡潔	届く	舌	
		88.2					
		89.2	81.3	66.0	94.8	95.5	

問		15					
		3	4	4	2	2	
問五 ウ	備考	問一					
		飛脚が重い	か	が	進	む	
			の	が	遅	い	
			こ	と			
完 解		80.2					
50~99%		60.4					
1~49%		78.1					

社 会

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の6(1)、(2)は、地域的特色をとらえ、思考・判断したことを表現する力をみる問題だが、正答率が9割を超えており、学習の成果がみえる。授業において、世界の地域構成をとらえ、人々の生活や産業とその変容について、様々な資料を適切に収集、選択して考察し、考えたことを表現する学習が十分に行われていることがうかがわれる。②の4は、日本の地形についての基礎的な知識・理解をみる問題だが、正答率が9割を超えており、学習の成果がみえる。海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解する学習が十分に行われていることがうかがわれる。⑤の3、4(1)は、現代の社会的事象についての基礎的な知識・理解をみる問題だが、正答率が高く、学習の成果がみえる。今後も、現代の社会的事象に対する関心をもち、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する学習を心掛けたい。

(2) 課題がみえる問題

③の4、5は、身近な地域の歴史に関連する知識を問う問題だが、正答率が低く課題がみえる。身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、身近な地域の歴史を我が国や世界の歴史と関連付けて考察し、学習内容の理解と定着を図ることが大切である。④の2は、歴史的事象の背景や因果関係を説明する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明する学習を大切にし、思考力、判断力、表現力を養いたい。⑤の1(2)は、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みについての知識・理解をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。多数決の原理とその運用の在り方について理解を深めるとともに、民主主義の意義について考える学習を心掛けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 基礎的な知識を活用して、身近な社会的事象について説明したり議論したりすることができる

身に付けた基礎的な知識を活用して、身近な社会的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり議論したりすることができる。

(2) 多面的・多角的に考察する学習に主体的に取り組み、自分の学習を振り返ることができる

よりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、多面的・多角的に考察し、根拠をもとに自分の考えをまとめることができる。学習を振り返ることで、自分の学びや変容を自覚し、次の学びにつなげることができる。

(3) 授業者は、適切な課題の設定と協働的な学びの充実を

授業者は、生徒の気付きや疑問を生かし、生徒の実態に即した学習課題を設定したい。また、多面的・多角的に考察し、公正に判断する態度を育成するための協働的な学びや、思考・判断したことを表現し合う場の充実を図りたい。

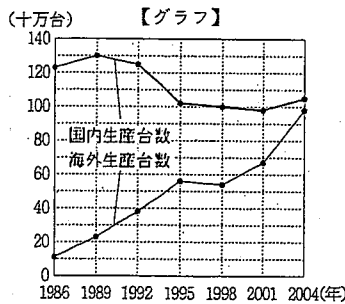
18		1	
2	1	③	58.3
2	2	環太平洋造山帯	81.3
2	3	ウ	72.2
3	4	14	64.2
3	5	イ	74.7
3	(1)	ASEAN	91.3
3	6	(例) 機械類や石油製品であり、工業化が進んだ	91.3
	(2)		

問	備考
1	6(2) 「工業化」が用いられていること。
2	1 「日本海流」でもよい。 2 番号と県名が両方できて正答とする。 3 記号と理由が両方できて正答とする。
3	2 「京都や鎌倉の整備をすること。」などでもよい。

2		17	
1	黒潮	78.5	2
2	番号 ④ 県名 鹿児島 県	63.2	3
3	記号 ウ	理由(例) 冬でも気温が高く、夏の降水量が多いから。	3
		72.6	
4	リアス海岸	93.8	3
5	(例) 1年間に2種類の農作物を同じ耕地で栽培する方法。	76.4	3
6	エ	47.6	3

3		17	
1	(1)	土偶	65.6
	(2)	ア	72.9
2	(例) 将軍のために戦いに参加すること。	61.8	3
3	ウ	50.7	3
4	北前船	3.8	3
5	国宝	24.7	3

18		4	
2	(1)	横浜	27.1
3	(2)	ウ	35.1
3	2	(例) 鉄道の利権を日本にゆずる	18.4
2	3	貴族院	62.5
2	4	高度経済成長	86.1
3	5	(1)	95.8
		(2)	



問	備考
4	4 「高度成長」でもよい。
5	1(1) 「臨時国会」でもよい。 4(2)Y 「権力のらん用」などでもよい。 4(2)Z 「主権を守る」、「自由を守る」などでもよい。
6	1(2) *の正答については、順序は問わない。 2(1) 「需要曲線と供給曲線が交差」などでもよい。

5		15	
1	(1)	臨時会	60.4
	(2)	3分の2以上	46.9
2		議院内閣制	68.8
3		ウ	90.6
4	(1)	ア	91.7
	Y	(例) 権力の集中	72.2
	Z	(例) 権利を守る	62.5

6		15	
1	(1)	労働基準法	72.6
	(2)	*イ	70.1
		*エ	85.8
2	(1)	(例) 需要量と供給量が一致	52.4
	(2)	公正取引委員会	69.8
3	(1)	循環	61.1
	(2)	イ	88.5

〔注意〕この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

数 学

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の3は、二次方程式の解を求める力をみる問題だが、正答率が高く学習の成果がみえる。一方で、高等学校からは「括弧の使い方が不適切であった」、「約分が不十分であった」などの報告が寄せられている。正しく計算する力を身に付けたい。②の1(1)は、グラフの特徴を理解し、不等式を用いて数量関係を式に表す力をみる問題だが、正答率が高く学習の成果がみえる。関数について、表や式、グラフを相互に関連付けて理解できるようにしたい。②の4は、図形的な性質をとらえ、作図する力をみる問題だが、正答率が高く学習の成果がみえる。図形の対称性や図形を決定する要素に着目し、見通しをもって作図できるようにしたい。

(2) 課題がみえる問題

①の5は、平面上に表現された空間図形を読み取り、その図形を考察する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。見取図、展開図や投影図を相互に関連付けて、空間図形を実感を伴って理解を深めるような学習を心掛けたい。②の2(2)は、方程式を活用する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。方程式を見通しをもつて的確に活用する力を身に付けたい。③の1(2)は、伴って変わる二つの数量の関係をとらえ、考察する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。関数を用いて具体的な事象をとらえ説明する力を身に付けたい。④の2は、三角形の相似条件などを用いて、論理的に証明する力をみる問題だが、5割以上得点した受検者は全体の27.4%であり、課題がみえる。結論に至るまでの過程を、筋道立てて論理的に記述する力を身に付けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 学習したことを活用するために、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることができる

授業での数学的活動を通して、基礎的・基本的な内容について実感を伴って理解した上で、課題解決に向けて結果を予想したり、解決のための方法を見いだしたりすることができる。

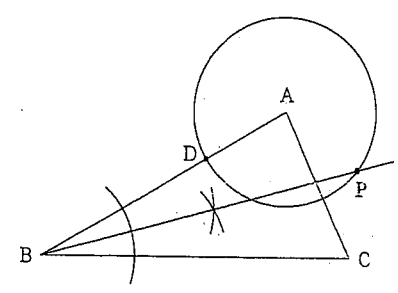
(2) 授業以外の日常生活の様々な場面で、学習したことを活用することができる

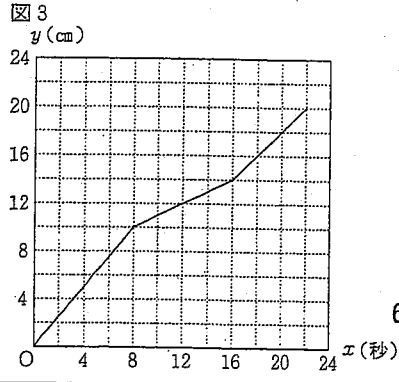
授業の中だけでなく、授業以外の日常生活の様々な場面でも、学習したことを積極的に活用して考えたり判断したりすることができる。

(3) 授業者は、生徒が課題解決のための見通しをもつ場を設定し、主体的に学習に取り組む態度の育成につながる授業の充実を

課題解決に向けて結果を予想したり、解決のための方法を見いだしたりする場を設定し、生徒が主体的に数学を活用して粘り強く取り組むことができるような学習活動の工夫を図りたい。

1		32		1	
	3	(1)	6	96.2	
	4	(2)	$\frac{5}{12}$	87.2	
	4	(3)	$-8x+5$	77.4	
	4	(4)	$10-\sqrt{6}$	75.3	
	4	2	(例) $x^2-6xy+9y^2$ $= (x-3y)^2$ $= (\frac{9}{2}-3 \times \frac{1}{2})^2$ $= 9$ 答 9	83.0	
	5	3	(例) $(x+4)(x-3)=7x-8$ $x^2+x-12=7x-8$ $x^2-6x-4=0$ $x = \frac{-(-6) \pm \sqrt{(-6)^2 - 4 \times 1 \times (-4)}}{2 \times 1}$ $= \frac{6 \pm \sqrt{52}}{2}$ $= \frac{6 \pm 2\sqrt{13}}{2}$ $= 3 \pm \sqrt{13}$ 答 $x = 3 \pm \sqrt{13}$	86.8	
	4	4	$\frac{8}{15}$	69.4	
	4	5	$6\sqrt{2}$	52.4	cm

2		28		2							
	1	(1)	$0 \leq y \leq 8$	81.9	4						
		(2)	ウ	49.0	4						
	2	(1)	(例) 3月の博物館の入館者の人数をx人とする。 $\frac{10}{100}x - \frac{2}{100}(7200-x) = 312$ (例) 3月の博物館の入館者の人数をx人、3月の美術館の入館者の人数をy人とする。 $\begin{cases} x+y=7200 \\ \frac{10}{100}x - \frac{2}{100}y=312 \end{cases}$	78.5	6						
		(2)	4180 人	31.9	4						
	3	(例) 240 cm 以上 260 cm 未満の階級の相対度数は、A中学校が0.12、B中学校が0.14であり、B中学校のほうが大きいから。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>100%</td><td>53.5</td></tr> <tr><td>50~99%</td><td>8.3</td></tr> <tr><td>1~49%</td><td>5.2</td></tr> </table>	100%	53.5	50~99%	8.3	1~49%	5.2			5
100%	53.5										
50~99%	8.3										
1~49%	5.2										
	4	(例) 			5						
				72.2							

3		20		3	
	3	(1)	5	73.6	
	3	ア	16	38.9	
	3	イ	$\frac{5}{4}x$	51.7	
	3	ウ	$x-2$	29.5	
	4	1	(2) 	68.8	
	4	2	$\frac{35}{2}$	6.9	秒後

4		20		4	
	1	95°	68.8		5
	2	<証明> (例) $\triangle AHB$ と $\triangle FGE$ において $AB \parallel DC$ で、同位角は等しいから $\angle BAH = \angle EFG$ ① 1つの円で、等しい弧に対する円周角は等しいから $\angle FEG = \angle BDC$ ② $AB \parallel DC$ で、錯角は等しいから $\angle ABH = \angle BDC$ ③ ②, ③より $\angle ABH = \angle FEG$ ④ ①, ④より、2組の角がそれぞれ等しいので $\triangle AHB \sim \triangle FGE$			10
	3	$\frac{10\sqrt{3}}{3}$	2.8		5

〔注意〕 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

理 科

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の1 a、b、②の4、③の1、④の2(1)は、基本的な用語についての記述式(用語・数値・漢字等)の問い、及び、現象を説明する記述式(まとまった文章等の記述)の問いであるが、正答率はいずれも9割を超えており、学習の成果がみえる。学習の基礎となる科学的知識が定着していることがうかがわれる。特に、②の4の正答率は非常に高く、文脈から適切な用語を記述する学習活動が定着していることがうかがわれる。⑧の1(2)は、調べた音の変化からオシロスコープの画面の様子の変化を推測する問題だが、正答率は7割を超えていた。実験結果を分析して科学的知識と結び付けるような学習活動を通して、思考力や表現力を高めたい。また、身の回りにある事物・現象について、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を通して、科学に対する興味・関心を高められるようにしたい。

(2) 課題がみえる問題

①の2(2)、⑦の2(2)、⑧の1(1)bは、数的な処理を伴う問題であるが、いずれも正答率が4割を下回っており課題がみえる。高等学校からは「四捨五入する桁を間違えている」「約を付けている解答があった」という報告が寄せられている。学力検査問題にとどまらず、日常生活において数値を扱う場面は多くある。どのような場面でも的確に数的な処理を行う学習活動を大切にしたい。②の2 a、⑤の3も正答率が低かった。特に②の2 aは、基本的な知識を文章の前後関係から判断して的確に表現する問題であった。科学的な知識や概念を使用して、思考したり説明したりする学習活動を重視したい。また、⑤の1は、平成30年度全国学力・学習状況調査において、技能に課題があり指導の充実が求められるとされた質量パーセント濃度を表す問題であった。報告書によると、質量パーセント濃度を求める問題の正答率は、平成24年度が52.0%、平成27年度が46.0%、平成30年度が47.3%であったことから、継続して課題があると考えられる。質量パーセント濃度について、学習場面の設定の工夫と指導の充実が求められる。

2 今後の学習のポイント(授業改善のポイント)

- (1) 科学的な知識や概念を使用したり、日常生活や社会と関連付けたりできる
自然の事物・現象に対して、科学的な知識や概念を使用して説明したり、日常生活や社会と関連付けて科学的にとらえたりすることができる。
- (2) 目的意識をもって観察・実験を行い、考察したことを科学的に表現できる
観察・実験の目的を自ら考え、根拠のある予想や仮説を立て、結果を見通した計画が立案できる。観察・実験の結果をもとに課題に正対した考察を行い、科学的な概念を使用し、考えたことを自らの言葉で表現することができる。
- (3) 授業者は、生徒が興味・関心を高め、科学的に探究し、振り返りを充実させた学習活動の工夫を
授業者は、生徒の興味・関心を高められるような事物・現象を題材にして、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を充実させたい。単元全体に探究の過程を効果的に位置付けた指導計画を作成したり、理科を学ぶ意義・有用性が自覚できる振り返りを充実させたりしたい。

1	12	1	a	気孔	94.1	
			b	維管束	91.0	
			c	二酸化炭素	87.5	
		2	(1)	*ア	*エ	82.3
			(2)	2.1	36.1	

3	12	1	プレート	92.7
		2	(例) 地層に押す力がはたらいて曲げられてできる。	68.1
		3	ウ	71.2
		4	ア	75.3

2	13	1	イ	84.7	
		2	a	(例) もとは同じである	39.6
			b	分離	68.1
		3	AA : Aa : aa = 1 : 2 : 1	79.2	
		4	進化	97.9	

4	13	1	エ	44.8	
		2	(1)	(例) (太陽の光が) 月に当たっているから。	92.0
			(2)	イ	74.3
		3	(例) 月が地球のまわりを公転しているから。	59.7	
		4	ウ	53.8	

問	備考
1	2(1) *の正答については、両方できて正答とする。順序は問わない。
2	2 a 「同じものから変化した」などでもよい。
3	2 「力」が用いられていること。
4	2(1) 「(太陽の光が) 月の表面で反射しているから。」などでもよい。 3 「公転」が用いられていること。

5	12	1	16.7	% 57.6		
		2	a	3	83.7	
			(1)	b	化学	78.5
			(2)	ウ	45.5	
		3	$2H_2 + O_2 \rightarrow 2H_2O$	47.2		

7	12	1	オ	80.2	
		2	(1)	エ	82.6
			(2)	1.3	倍 39.6

6	13	1	FeS	81.3
		2	<p>図 硫化鉄の質量 (g)</p> <p>硫黄の質量 (g)</p>	68.4
		3	* 水素	62.2
			* 硫化水素	47.9

8	13	1	a	2	38.2	
			(1)	b	イ	35.1
			(2)	ウ	75.0	
		2	(例) 水が音源の振動を伝える	67.7		

問	備考
6	3 *の正答については、順序は問わない。
8	2 「振動」が用いられていること。「水が振動する」などでもよい。

英 語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の2は、対話文を聞いて具体的な内容や大切な部分を聞き取る力をみる問題だが、正答率はア～ウいずれも9割を超えており、学習の成果がみえる。授業での言語活動を通じて、聞き手として必要な情報や話し手が伝えたいことを聞いて理解できるようになっていることがわかる。③の1は、対話文から必要な情報を読み取ったり内容をとらえたりする問題であるが、正答率が9割を超えている。対話文の大切な部分を的確に読み取ったり、話された内容をとらえたりする力が定着していることがわかる。④の4は、読んだ事柄について、英語の問いに英語で答える力をみる問題であるが、(1)は8割、(2)は6割の正答率であり、学習の成果がみえる。英文から必要な情報を的確に読み取り質問に答える力が定着していることがわかる。

(2) 課題がみえる問題

②の1(2)や3(2)については、正答率が低く課題がみえる。単に語彙や文法事項などについての知識を身に付けるだけでなく、授業などでの身近な言語の使用場面において積極的にコミュニケーション活動に取り組み、実際に言語を使用しながら基本的な語彙や文法事項を活用する力を身に付けたい。③の3は図や表及び対話の内容に合うものを選ぶ問題だが、正答率については正答率が低く、課題がみえる。図と表を照らし合わせながら、英語で書かれた内容を類推して理解する力を身に付けたい。④の6のI及びIIはいずれも単に英文を読み取るだけでなく、「読むこと」と「書くこと」を統合的に活用する問題であるが、正答率が低く課題がみえる。読む際には大まかな流れをつかみながら読み取ることが大切である。「読むこと」を通じて得た知識等について活用し、「書くこと」を通じて発信できるようにしたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 学習した表現を使いながら積極的にコミュニケーションを図ることができる

授業での様々な言語活動において、学習した表現を活用して、相手の考えを理解したり、自分の考えを積極的に伝えたりすることができる。

(2) 英語を聞いたり読んだりしたことをもとに、自らの考えや気持ちなどを英語で伝えることができる

単に読んだり話したりできるだけだけでなく、授業での言語活動で「聞くこと」や「読むこと」を通して学んだことについて、自分の考えや気持ちなどと結び付けながら活用し、話したり書いたりして英語で発信することができる。

(3) 授業者は、生徒の実態や「付けたい力」に応じた指導計画の改善と、教科書の題材や内容を活かしながら4技能を統合的に活用する言語活動の充実を

学校ごとに作成した「CAN-DOリスト」の活用など、指導と評価を一体化する指導方法の工夫・改善を図りたい。また、既習の内容を言語活動の中で繰り返して指導し定着を図り、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行って学習内容を活用させ、4技能を統合的に活用できる授業づくりを図りたい。

1	26	1	1	No.1	ウ	63.2
	3			No.2	イ	84.0
	3		2	ア	11	96.9
	3			イ	飲み物	99.0
	3			ウ	戻る	95.8
	3		3	No.1	ア	79.2
	3			No.2	イ	91.7
	5		4	Bill: Do you need help? ----- Kayo: Oh, thank you. ----- These books (are too heavy for me to carry -----)		76.4

2	18	1	(1)	born	54.5
			(2)	thousand	21.9
			(3)	hours	51.7
		2	(1)	イ	70.5
			(2)	エ	73.3
		3	(1)	(My uncle reads a newspaper written in -----) English every day.	62.8
			(2)	What (was your dream when you were -----) a child?	36.8

問	備考
1	2 対話文に即した内容であれば正答とする。
3	1 対話であげられている具体的な例に即した内容であること。 3 *の正答については、順序は問わない。

3	16	1	(例) 子どもたちに音楽を教えたり、病氣の人を助けた ----- りすること。	94.8	
		2	X	ウ	60.1
			Y	ア	61.8
			Z	オ	70.5
		3		*ウ	43.1
				*エ	83.0

4	30	4	1	エ	50.0
			2	(C)	67.7
			3	(例) クラスのみんなにあやまること。 -----	80.6
			4	(1) (例) It is in June.	79.5
				(2) (例) No, he didn't.	61.1
			5	オ → イ → エ → ア → ウ	60.4
			I	So, ((例) did you listen to -----) Yuta's speech, too?	47.2
			II	Your class didn't ((例) get the first prize -----) in the relay.	28.5

5	10	【評価の観点】	(1) 内容	○ 問われた内容に対して、自分の考えなどが明確に述べられているか。 ○ 自分の考えなどに対する理由や具体例が述べられているか。 ○ 4文以上の英文で、文と文のつながりなどに注意して書いているか。
			(2) 正確さ	○ 文字や符号を識別し、語と語の区切りや語句の綴りなどに注意して、正しく書いているか。 ○ 文構造や語法などの知識を活用して、正しく書いているか。
				正答率 81.6

問	備考
4	3 本文に即した内容であること。 4 本文に即した内容であること。 5 全部できて正答とする。 6 4語以上の英語で、本文及び対話文の文脈に合う内容であること。

問	備考
5	(例) You should go to Kyoto. There are many shrines and temples in Kyoto. You can learn about Japanese history by visiting them. You can also enjoy good Japanese food in Kyoto.

〔注意〕 この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

平成31年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況 (入学定員・入学志願者数・合格者数等)

1 年度別比較

年 度		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
中学校卒業生数		10,687	10,621	10,608	10,276	9,798
全 日 立 校	入学定員	7,480	7,360	7,240	7,080	6,840
	入学志願者等の数	7,212	7,366	7,410	6,876	6,426
	倍 率	0.96	1.00	1.02	0.97	0.94
	合格者等の数	6,800	6,869	6,712	6,396	6,000
	最終倍率	0.96	0.99	1.01	0.96	0.93
	充足率	90.9%	93.3%	92.7%	90.3%	87.7%
	入学定員	280	280	280	280	280
	入学志願者等の数	346	345	356	340	336
	倍 率	1.24	1.23	1.27	1.21	1.20
	合格者等の数	281	284	280	282	282
	最終倍率	1.24	1.23	1.27	1.21	1.20
	充足率	100.4%	101.4%	100.0%	100.7%	100.7%
	入学定員	7,760	7,640	7,520	7,360	7,120
	入学志願者等の数	7,558	7,711	7,766	7,216	6,762
	倍 率	0.97	1.01	1.03	0.98	0.95
	合格者等の数	7,081	7,153	6,992	6,678	6,282
	最終倍率	0.97	0.99	1.02	0.97	0.94
	充足率	91.3%	93.6%	93.0%	90.7%	88.2%
入学定員	280	280	280	280	280	
入学志願者等の数	127	116	101	127	124	
倍 率	0.45	0.41	0.36	0.45	0.44	
合格者等の数	120	112	98	119	122	
最終倍率	0.45	0.41	0.35	0.44	0.44	
充足率	42.9%	40.0%	35.0%	42.5%	43.6%	
入学定員	8,040	7,920	7,800	7,640	7,400	
入学志願者等の数	7,685	7,827	7,867	7,343	6,886	
倍 率	0.96	0.99	1.01	0.96	0.93	
合格者等の数	7,201	7,265	7,090	6,797	6,404	
最終倍率	0.95	0.97	1.00	0.95	0.92	
充足率	89.6%	91.7%	90.9%	89.0%	86.5%	

(注)

- (1) 中学校卒業生数は、学校基本調査結果報告書の中学校3学年と義務教育学校9年生の生徒数の合計とする。
- (2) 入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 倍率＝入学志願者数÷入学定員
- (4) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
- (6) 充足率＝合格者数等の数÷入学定員×100

2 課程別・学科別

H31

課程	区分	入学定員		受検者等の数		合格者数等の数		
	学科	人数	前年度比	人数	最終倍率	人数	充足率	
全 日 制	普通科	3,400	▲160	3,186	0.94	3,159	92.9%	
	専門教育を主とする学科	理数	80	0	93	1.16	80	100.0%
		探究	240	0	505	2.10	243	101.3%
		音楽	40	0	28	0.70	29	72.5%
		体育	80	0	82	1.03	80	100.0%
		農業	400	0	293	0.73	291	72.8%
		工業	1,160	▲40	1,028	0.89	1,009	87.0%
		商業	600	0	609	1.02	569	94.8%
		水産	80	0	27	0.34	27	33.8%
		家庭	80	0	79	0.99	80	100.0%
		看護	40	0	43	1.08	40	100.0%
		情報	40	0	58	1.45	40	100.0%
	総合学科	880	▲40	637	0.72	635	72.2%	
合計	7,120	▲240	6,668	0.94	6,282	88.2%		
定 時 制	普通	200	0	104	0.52	102	51.0%	
	工業	80	0	20	0.25	20	25.0%	
	合計	280	0	124	0.44	122	43.6%	
全定合計		7,400	▲240	6,792	0.92	6,404	86.5%	

(注)

- (1) 入学定員の増減は、普通科（山形南-1、上山明新館-1、谷地-1、小国-1、）、総合学科（鶴岡中央-1）、工業科（酒田光陵-1）の各校クラス数増減によるものである。
- (2) 受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
- (4) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 充足率＝合格者数÷入学定員×100

3 推薦入学者選抜実施状況（平成31年度）

区分	課程 学科	全 日 制												
		普通	専門教育を主とする学科										総合学科	
		理数	探究	音楽	体育	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報		
入学定員		3,400	80	240	40	80	400	1,160	600	80	80	40	40	880
募集人員		—	8	—	20	56	96	288	122	24	24	12	10	170
志願者数		—	13	—	27	78	94	382	212	12	30	32	19	150
内定者数		—	8	—	21	60	85	287	139	12	24	12	12	132
志願倍率		—	1.63	—	1.35	1.39	0.98	1.33	1.74	0.50	1.25	2.67	1.90	0.88
充足率		—	100.0%	—	105.0%	107.1%	88.5%	99.7%	113.9%	50.0%	100.0%	100.0%	120.0%	77.6%

区分	全 日 制 計
入学定員	7,120
募集人員	830
志願者数	1,049
内定者数	792
志願倍率	1.26
充足率	95.4%

区分	課程 学科	定 時 制		
		普通	工業	計
入学定員		200	80	280
募集人員		—	—	—
志願者数		—	—	—
内定者数		—	—	—
志願倍率		—	—	—
充足率		—	—	—

区分	全 日 制・定 時 制 総 計
入学定員	7,400
募集人員	約 830
志願者数	1,049
内定者数	792
志願倍率	1.26
充足率	95.4%

<注>

- (1) 志願倍率＝志願者数÷募集人員
- (2) 充足率＝合格内定者数÷募集人員×100
- (3) 推薦選抜で志願者があった学校
全 日 制：26校（前年26校）
65学科（前年66学科）
- (4) 募集人員（実施要項より）
理 数 科：20%程度
音 楽 科：50%程度
体 育 科：70%程度
職業に関する学科：30%以内
総合学科：30%以内

※募集人員の計は各校で定めた人員を単純に合計したもの